

2026年3月26日

# 中性子基礎基盤部会からの報告

基礎基盤部会長 北口雅暁

## 1 基礎基盤部会について

### 1.1 設立の経緯

これまで日本は中性子基盤技術の研究開発において世界をリードする立場にいたが、2000年代初頭、ヨーロッパの研究機関が連携して中性子とミュオンの基盤技術を整備するプログラム「NMI3」が興り、J-PARC建設時期ともあいまって、日本における中性子基盤技術の優位性を確保する必要性が認識された。基盤技術の研究開発には息の長い支援が必要であり、中性子科学会初めての部会の設立が提案された。検討の末、2006年6月17日評議員会で基礎基盤部会の設立が承認された。同年の総会において、本部会の設立が決議され、基礎基盤部会規定が制定された。

### 1.2 目的

中性子基礎基盤部会は中性子に関する基礎・基盤に関する専門分野の研究活動を支援し、その発展に貢献する。(中性子基礎基盤部会要綱:2006年6月17日評議員会承認、2008年11月30日改定評議員会承認、2019年1月10日改定評議員会承認)

## 2 2025年度の活動・運営状況

### 2.1 研究会(活動)

加速器学会と中性子科学会が連携して設立した「加速器中性子連携タスクフォース」がある。基礎基盤部会は、加速器学会側と協力してインフォーマルミーティングを継続して開催している。東京都市大学世田谷キャンパスで開催された加速器学会会期中2025年8月8日に開催した。

「研究用原子炉を用いた原子核素粒子物理科学」(FPUR)が継続して開催されている。基礎基盤部会は協力しており、過去4回開催した。直近の第5回FPURは2025年12月9、10日に大阪大学RCNPと京都大学複合原子力科学研究所にて、中性子科学会の後援で開催した。(主催:阪大RCNP、他後援:核物理委員会、京都大学新試験研究炉開発・利用センター)

中性子の未来技術を「制限なく」議論する会として「新試験研究炉未来構想研究会」が企画された。北口部会長が開催責任者の一人として参加し、2026年2月10日に京都アカデミアフォーラム(丸の内)にて開催した。参加者アンケートも好評で次回開催も検討しており、基礎基盤部会として協力する。

### 2.2 中性子関連の専門用語の標準化(活動)

2017年の評議員会報告にもある中性子関連の用語の標準化に向けた議論を、定期的にオンラインミーティングを継続して行なっている。

### 2.3 部会員の再確認（進行中）、会員動向（運営）

部会員一人ずつに確認をとりながら部会員名簿を更新している。引き続き行っていく。  
2026年3月現在、25名のアクティブな部会員を確認している。

上述の研究会などで若手研究者を中心に新規部会員を募っており、今年度8名が新規入会した。

### 2.4 メールングリストの運用開始（運営）

Google group を作成、メールングリストの運用を開始した。

[jsnsfwg@googlegroups.com](mailto:jsnsfwg@googlegroups.com)

### 2.5 Web ページの仮運用（運営）

共有できる Google document を作成、仮の Web ページとした。

[https://docs.google.com/document/d/1LnLQf1LmCbJnLRDMC9n5zW4cdDhq7JQq8O9W7\\_FA1FQ/edit?usp=sharing](https://docs.google.com/document/d/1LnLQf1LmCbJnLRDMC9n5zW4cdDhq7JQq8O9W7_FA1FQ/edit?usp=sharing)

過去の情報を収集中である。

## 3 アンケート結果への対応・KUR 運転終了への対応

### 3.1 活動の可視化・積極的な発信

情報を集約し発信するために Web ページの準備を行った。公開の方法を検討中である。  
施設連携部会と連携について相談した。

### 3.2 若手育成・会員拡大

各種学会・研究会にて説明や勧誘を行った。結果、学生2名を含む若手8名にご入会いただいた。

### 3.3 学会への貢献・連携

中性子科学会でない方と交流する研究会を継続的に開催しており、基礎基盤技術情報の学会への紹介の場になっている。学会の後援をいただいて学会メールングリストに配信していただき、参加の機会を提供している。

基盤技術は裾野の広い研究（ダイバーシティ）から生まれるものであり、幅広い情報の収集・発信、分野を跨いだ交流を行なっていきたいと考えている。Web ページやメールングリストを活用していく。

### 3.4 KUR 運転終了への対応

「研究用原子炉を用いた原子核素粒子物理科学」「新試験研究炉未来構想研究会」とともに、KUR の次の新しい原子炉、さらにはもっと一般的に次世代の中性子源に向けたサイエンスや技術を議論する研究会である。基礎基盤技術が新しい中性子源建設にあたって重要であると認識しており、部会としてサポートして今後も継続して開催していく。

## 4 2026 年度の活動・運営計画

### 4.1 研究会の開催（活動）

関連研究会への参加、中性子科学会への後援の申請等を行う。

4.2 中性子関連の専門用語の標準化 (活動)

中性子関連の専門用語の標準化の議論を継続して行う。

4.3 Web ページの整備、情報の回復と整理、運用。 (運営)

過去の情報も含め、誰でも見られるよう Web ページを整備する。

4.4 部会長選出 (運営)

2026 年度はじめに部会総会を開催し、部会長を選出する予定。

以上